



至誠の泉

甲斐市立双葉中学校
学校だより
発行 校長 輿石 信
令和5年度 第12号
2023.12.20

社会のあり方を考える

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

皆さんは、本館4階に行く階段の途中に新聞の切り抜き記事が掲示されているのを知っていますか。気づいて足を止めて読んだ人もいます。内容はSDGsに関連したもので、本校1年生が、国語の時間にSDGsについて学習した折に、17ある目標の中から興味をもった事柄について調べ、自分の考えをまとめたものを、山梨日日新聞に送ったところ、幾つかが、「私も言いたい」のコーナーで採用され、掲載となりました。それらを紹介していきます。

身近なことから海の危機を救う

◇ SDGsは世界中が協力している「だれも置き去りにしない」世界をつ

くる17の目標のことで、このSDGsで私が協力したいと思ったことは、14番目の目標、海の豊かさを守ろうというものです。今、海の中の環境に問題が起きていて、魚に負荷がかかり大切な命をうばっているの、海を守るために私たちに何ができるかを知りたかったからです。◇ 海のきれいさを守るためにできることは今すぐ取り組みます。海の周辺のごみを拾うことや食器についた油よごれはふきとりごみ箱に捨てること、分解されにくい合成洗剤はなるべく使わないようにするなど、私たちが取り組めることはたくさんあります。自分たちが海のために取り組むことによって、魚が病気になったりせず元気にいられたり、きれいな美しい海を汚さず、海の魚たちが生きやすい環境を保っていきます。私たちが住んでいる海がない山梨県でも、海の環境を守っていくために取り組めることがたくさんあるので協力していこうと思いました。◇ 私は最初、海のために取り組めることは今すぐ簡単にできないと思っていました。でも海を守るためには、普段私たちが気にしていないことを気にしてみれば、身近なところから海をキレイにして、今の海のピンチを救えることが分かりました。

(M・Kさん)



互いを尊重して争いのない世界に

◇ 「SDGs」。S (ずっと続けられる)、D (開発のための)、G (目標)

で構成されていて、今、世界中で起きている問題をみんなで解決するためにつくられた17の目標である。その中でも、16番目の目標「平和と公正をすべての人に」に興味をひかれた。この目標の中に「紛争や暴力のない平和な世界に」という大切な言葉がある。今も世界中で、あるいは同じ国の中でも争いが起きている。身近なところでさえ、「平等」や「平和」といったものの中で過ごせない人たちがいる。安心、安全に暮らすことのできる世界をつくりたい。◇ 自分が、また、双葉中全体でできること。「何事にもみんなの意見を聞き、平等に決める」ことだと私は考える。クラスなどさまざまなグループで話し合いをして決めたり、結論を出したりする行動だ。◇ 人の思いを聞くことは、一人一人を尊重すること。それが争いをなくすこと、問題を解決することにつながる。さらに、その集団の仲を深めることができる。中学時代に私たちがこのような経験をすることで、話し合い、相手の考えを聞く力をつけることが、大人になった時にも大きな力となるはずだ。(H・Iさん)



多様性ある社会 実現するために

◇ 「ジェンダー平等」とは、一人一人の人間が性別にかかわらず、誰もが

皆平等ということを目指す。現代社会の中で、さまざまな解決すべき問題が発生しているが、その中で最近ニュースや新聞などで頻りに目にする「ジェンダー平等」という言葉。私は、解決に向けて世の中で行っている取り組みについて深く知りたいと思い、自分にできることを探したいと考えた。◇ 日本や世界における男女格差や多様な性に対する理解度を見ると、日本は世界に比べ、理解度が低いと思われる。例として、男女格差では国会議員に女性が少ないことや、日本はまだ昔から男性優位な社会の現状が続いていることが挙げられる。多様な性に対しては、あまり気軽に自分の性に関して口を開くことができない現状にあり、性差がいろいろな面ではっきりしている。◇ 男性だから、女性だからという言葉にとらわれることなく、誰でも生きやすい、自分らしさを大切にできる社会にしていくことがこれからの未来につながっていくと思う。性差をなくし、多様な性を受け入れるためには、教育の一環として深く知る機会やさまざまな性を持つ方とコミュニケーションをとる場を設け、積極的に多様な性への理解を促すことが大切である。さまざまな性があることが普通であることを定着させていくことが必要である。多様性にあふれた活気のある世の中を実現するあめには、一人一人の理解が必要であり、個人の努力だけでなく、日本全体が改善に向けて動くことが重要だと考える。(S・Nさん)



食品ロス削減へ まずは自分から ◇ 最近「SDG s」という言葉を目にすることが多い。それもその

はず、私たちが暮らしている地球に、さまざまな問題が起きてしまっているからだ。そして「SDG s」とは、これらの問題を解決するためにつくられた、持続可能な開発目標のことなのだ。今の私たちの暮らしに危機感を覚える人は多いのだろうか。私はどちらかというと、あまり危機感はないような気がする。でも、地球のために私たちは行動しなければならない。◇ そこで知ったのが、私たちにとってとても身近な「つくる責任 つかう責任」という項目だ。今まで気にしたことなかったくらい当たり前のことだが、SDG sの活動になる。私は双葉中で「つくる責任 つかう責任」の活動ができるだろうかと考えてみた。食品ロスは、食品がごみとなって燃やされることで、地球環境に影響をもたらしている。私が思いついたのが、「細かく減らそう」という活動だ。一人一人が食べられる分を食器に取るようにすれば、ほんの少しでも食品ロスを減らすことができる。そして、食べられる人に食べてもらう。自分の食べられる量が分からない人は、少なめに取って、後から食べられる分を増やせば良い。そうすれば、少しは食品ロスを減らすことができると考えた。◇ 大きな成果は出なくても、結局は一人一人の心がけだとも思う。そして、私が考えた活動は無意味になってしまうかもしれないが、何かのきっかけになったら良いと思う。少なくとも、私自身が食品ロスについて考えることはできた。だから、まずは、自分が食品ロスを減らすようにしようと思った。(N・Sさん)



全ての人の幸せを守るための試練 ◇ 「SDG s」、誰もが知っている言葉。私もこの言葉を知っているつもり

だった。しかし、SDG sは人類を守るため、全ての人の幸せを守るための大きな目標でもあり、試練だった。SDG sの目標の中で特に深刻だと思ったのは、「陸の豊かさを守ろう」だ。ふだんから、虫を嫌っている人もいるだろう。私もその一人だ。お気に入りの動物や虫は守りたいが、嫌いな動物や虫はいなくなしてほしいという人は少なくないだろう。しかし、全ての動物や虫は、私たちの生命を守ってくれている。◇ 虫が絶滅したら、植物はなくなる。植物がなくなったら、動物が絶滅する。動物が絶滅したら人間も絶滅する。というように虫がいるから、私たちは生きていくことができる。つまり、虫が私たちの命をつないでいてくれている。しかし、現在は世界の昆虫類の約40%が減少傾向にあるという。生息環境が失われ、殺虫剤や肥料の使用などが一因だ。虫に助けられている私たちが虫を殺してしまっている。◇ 今、人間は産業や文明の発達で多くの生き物を絶滅に追いやっている。生物多様性を守り、自然界のバランスを保つために私たちにできることは何か。それは、虫を過度に殺さないように殺虫剤や肥料の量をおさえることだと思う。人間も生物多様性の一部だ。人類が協力して取り組まなければならない。私も人ごとではないと分かった。(Y・Sさん)



増える海洋ごみ 絶対減らしたい ◇ 未来を持続可能な世界にするために、世界のすべての人が取り組むべき

目標がある。僕はその一つ「海の豊かさを守ろう」に興味がある。理由は、2050年にはプラスチック生産量が現在の約4倍になり、海洋プラスチックごみの量が海にいる魚より多くなる、という予測にとっても驚いたからだ。2050年には僕は40歳。このような予測が現実にならないために、できる活動は何かがあるか。◇ 例えば、レジ袋をもらわないようにすることができる。これをするによって、レジ袋を作る時と焼却する時に発生する二酸化炭素が1枚当たり62g減る。また、リサイクルをすることで捨てるごみが少なくなり、街がきれいになって海洋ごみが少なくなる。他にも、海や川にごみを捨てない、ごみが街にあったら拾う、ごみはごみ箱に捨てる—などという海洋ごみを出さない活動ができる。実際に僕は、マイバッグを持ったり、母にすすめたりしている。◇ もちろん、今挙げた例はごく一部なので、他にもできる活動があるから、ぜひ自分で調べてやってみてほしい。僕はすしが好きで、よくすし屋に行くけれど、もしかしたら、このまま海洋ごみが増えたら、僕たちが60歳くらいになった時にすしが食べられないかもしれない。僕が60歳になるのは2070年。絶対に海洋ごみを減らさなくてはならない。(S・Kさん)



妊婦や子どもの死亡率下げたい ◇ 「SDG s」という言葉を、最近よくニュースなどで見ます。でも、く

わしくは知りません。そこでくわしく調べてみました。SDG sとは、世界は貧困や人種差別、環境破壊などのさまざまな問題に直面していて、こうした地球規模の問題を解決するために、「誰一人取り残さない」という共通理念のもと、国連加盟193カ国が達成を目指す国際目標として定められました。◇ 私は、17の目標のうちの3番目の目標「すべての人に健康と福祉を」について、深く知ることになりました。母が医療の立場から人を助ける看護師ということもあって、「すべての人に健康と福祉を」という視点に興味を持ちました。そして、分かったことは、5歳未満の死亡者総数は2000~17年で約440万人減少したこと。また、感染症や、妊娠および出産に関連する合併症が死亡の原因になることが多いことです。そこで、正しい知識をもって薬物やアルコールの害について知ることが必要です。世界の妊産婦や新生児および5歳未満児の予防可能な原因による死亡を減らし、死亡率を下げることです。◇ そこで私たちにできることは、募金やエコキャップなどでの支援だと思います。これを行うことで、一人でも多く感染者が減り、注射や診察を受ける人が増え、困っている人の助けになると考えます。自分もこのような取り組みで、「すべての人に健康と福祉を」に貢献していきたいです。(N・Yさん)

